

# スペインの素焼き瓦、コテ跡の残る外壁…… 自然豊かで温暖な環境に合わせて選んだのは 南欧風の小さな平屋

わが家を建てるべく理想の地を探し求めて3年。西澤美穂さんが温暖で緑に囲まれた地につかったのは、自らデザインを描き、細部までこだわった平屋。暮らしも心もゆったりと開放感にあふれています。



緑の中、丘の中腹にぽっかり現れる美穂さんの家。敷地内の隣には、同じくスペイン風の外観をしたご両親の家が。豊かな自然を背景に2軒並んで建つ様子は、南欧の田舎そのもの。

緑の色濃い房総の山間部、ゆるやかな丘の途中にたたずむ美穂子さん宅。素朴なスペイン瓦に三角の煙突、漆喰壁に日差しが映える様子は、南欧の景色を切りとってきたような明るさに満ちています。茅ヶ崎出身でそれまで東京に住んでいた美穂さんが、この地に越してきたのはいまから3年前。「自然に囲まれ、温暖な土地で暮らしたい」と、故郷でもある湘南をはじめ、理想の地を探し続け、ようやくたどり着いたのがこの場所でした。「土地探しだけで丸3年。長かったけれど、その間、雑誌や設備資料などをじっくり見て、家へのイメージが固まっていたのがよかったです」

外観は、雑誌を見てひと目で気に入った南欧風の輸入住宅。内装は自然素材を生かし、天井は高く……と自分の好きなものに。新居への夢が、3年の間にどんな具体的にになっていったといいます。珍しい平屋づくりへのこだわりも、そのころから。「年をとってから安心なことはもちろん、上下に行かなくてもゆったり暮らせそうだから」という間取りは、玄関からリビングまでひと続き。両サイドに大きくとった窓、5mもある天井に囲まれた空間は、開放感もひととき。階上にある広々としたロフトは、子どもたちの絶好の遊び場になっています。「リビングのソファに座って外の景色を眺めていると、まるで森の中にいるようで……しみじみよかったです」



玄関からひと続きになったLDKは、パイン材とテラコッタで巧みにゾーニング。自らデザインした純白のキッチンも、大工さんに理解してもらえず、何回か作り直した苦心の作。

part 1

# We love country house!

「正面にどうしても大きな窓が欲しかった」というサニタリー。おかげで北向きの場所も、一日中明るく快適。手づくり感漂うタイルとシンク下の布使いでぬくもりもプラス。

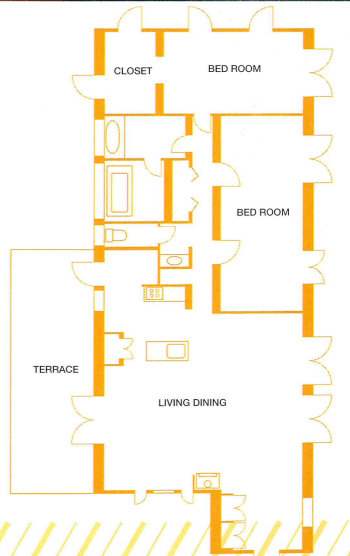
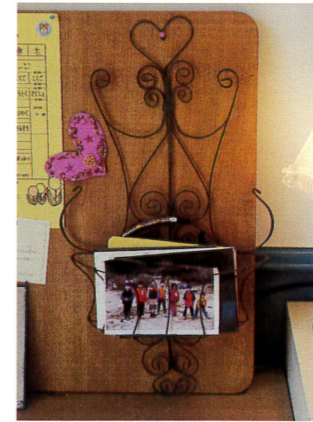


シンクとタイルはアメリカ「コーラー社」製。シンプルの中に、どこかクラシックな香りが漂うデザイン。フォルムの美しいシルバーで統一した小物類からも、清潔感が伝わって。

思い通りの住まいにしたいくて  
イメージを伝えるために  
描いたデッサンは  
なんと10枚以上！



家の中央を通る廊下の南側に個室を、突きあたりにメインベッドルームを配して。廊下正面に見える窓が、絶妙のフォーカルポイントになっている。「カーフ」で購入したベッドは新婚当時から使っているものだが、この家の雰囲気にもぴったり。



## Planning idea

山を切り開いた230坪（隣接する両親の家も含む）という敷地を生かし、南欧の田舎に見られるような平屋づくりに。スタイルだけでなく、瓦やタイルなどもスペインから取り寄せ、本物の風格が漂う美しい仕上がり。玄関からひと続きのリビングを抜けると、廊下の両脇に子ども部屋やバスルーム、奥に寝室を配置。階上には大きなロフトを設け、納戸兼子どものプレイルームとして活用しているのも楽しい。設計・施工/つるかお工務店





ナチュラルな空間に彩りを与えるのがみずみずしい花々。クリスマスに飾った赤い布が思いのほか新鮮で、以来花も赤やピンク系に凝っているそう。花をあしらう器もアンティーク風の真鍮の花びんや、素朴な木の鉢カバーなどでまとめ、南欧風のイメージを強調して。

part 1

## We love country house!

家を建てるにあたっては、美穂子さんとご主人の間に、明確な役割分担があったといいます。理系のご主人は、もっぱら家の構造や床材などの資材関係のみっちり勉強、それに対して美穂子さんが受け持ったのがデザインと内装です。

洋書や雑誌を見ながらキッチンにはこう、リビングは、照明は、床材は……と細部まで描き込んだデッサンは10枚以上。子どもが寝静まった深夜、新居に夢を馳せながら鉛筆を走らせたのも、忘れられない思い出です。さらに、その夢を実現させるべく、家が着工してからは近くのアパートに仮住まい。毎日現場に通い、職人さんたちに直接自分の思いを伝えてい

きました。

「無理かもしれないということも、後悔したくないから、勇気を出してお願いしてみたんです。いつしか熱意がわかってもらえて、一緒にタイルを選ばせてもらったり、張り方を私の思い通りに変えてもらったりしたことも」

特に苦心したのがキッチン。アイランドスタイルを理解してもらえずに、壁で仕切られそうになっていたのを、すんでのところで気づき直してもらったこともあったほど。わざとコテ跡を残した外壁も、近所の人に「いつ塗り終わるの」と聞かれたなど、エピソードにも事欠きません。すべてに試行錯誤を重ねた家づくりの

結果、デッサンに描いた通りの家が完成したときは感激もひとしお。職人さんにも特別な家だったようで、家を建てて1年後には、大工さんが仕上がりを訪れ、その住まい方に満足して帰ったとか。

理想の家に暮らして3年、独身時代からのカーテンや新婚当時に買ったアメリカの古家具もしっくりなじみ、より自分たちらしい家になってきました。広々とした庭では、去年から丹精しているというハーブや野菜のキッチンガーデンが季節を待ちわびて……都会では決して得ることのできない、心豊かに暮らす生活へのヒントが、美穂子さんの毎日には満ち満ちているのです。

キッチンまわりは、温かみの感じられる質感のものを揃えて。少しびつぽってりしたタイルは、特にこだわって職人さんに頼んだもの。かご類も「目につくと、用もないのにとりあえず買ってしまおう」ほど好きで、いつの間にかコレクション。



天井高5mの  
空間には  
玄関からLDKまでが  
ゆったりと広がって。

見上げるほどの天井は、平屋ならではの贅沢。ご主人が厚みにこだわって選んだパインの床にドライウォールの白壁、「アンダーセン社」の窓と、優秀なナチュラル素材をふんだんに使い、くつろぎ感も満点。気密性が高く、冬は薪ストーブだけで家全体が暖か。

入住宅のインテリアを楽しむ本

\*ま\*る\*ご\*と\*

ントリースタイル!

e love country house!



あなたの住まいづくりにすぐ役立つ

部屋別・パーツ別 \*

カントリーアイデア26

\* 南欧風の住まいなら太陽色がポイントです \*

フレンチカントリーにはアンティーク家具がおすすめ \*

タイルとムクのフローリングだけでカントリーキッチンに変身

美しい部屋  
別冊